

平成29年度

国立病院機構鹿児島医療センター臨床研修説明会

平成29年7月7日（金）ソラリア西鉄ホテル鹿児島7階ホールにおいて、平成29年度鹿児島医療センター臨床研修説明会を開催致しました。当日は鹿児島大学を中心に77名の医学生に参加いただき、当院の研修医、医師、メディカルスタッフ、事務部門併せ137名と会場が満杯となりました。説明会では、田中院長による開会の挨拶、続いて1年目研修医 三宅先生と2年目研修医 森山先生による自身の経験を元にした当院・協力病院での初期研修の紹介、ボランティア参加で当院初期臨床研修修了者大江先生の「研修の振り返り」、私から研修プログラム「城山」の包括的かつ改変点を踏まえた説明、乾杯後懇親会の際には、動画やスライドを使用して各診療科の紹介を当該医師より行って頂き、花田名誉院長の締めめの挨拶により盛会裏に終了いたしました。今回の説明会は、鹿児島大学医学生の皆さんに当院での初期臨床研修について身近に知っていただける好機となりました。



鹿児島医療センター臨床研修管理委員会では、研修医会議、指導医会議、臨床研修管理委員会を主にあらゆるイベントを通じて、研修医からのヒアリングを行う一方自助努力を求め、初期臨床研修プログラム「城山」の問題点・改善点を分析し、研修医の皆さんに対しては充実した2年間の研修生活を、鹿児島の行政、大学、医師会各位に対しては医療の整備拡充を、当院に対しては安定成長をコミットするために鋭意努力しております。

今回の説明会開催にあたりご協力いただきました研修医、医師、メディカルスタッフ、事務部門の皆さまに感謝申し上げます。

協力研修病院、協力研修施設、当院の関係各位には研修医教育への日常のご配慮に感謝申し上げますとともに、今後とも何卒宜しく願い申し上げます。

（文責：臨床研修管理委員会プログラム責任者 菰方 輝夫）

（文責：臨床研修管理委員会プログラム責任者 菰方 輝夫）



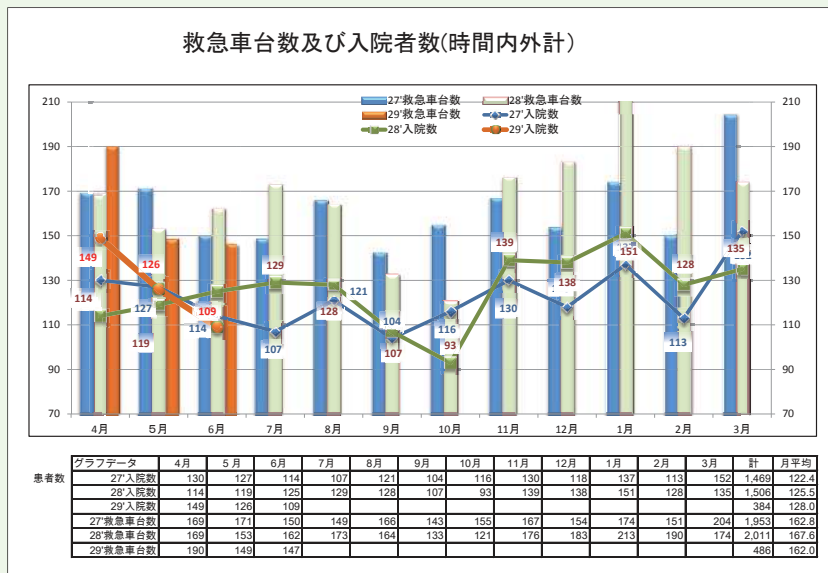
当院に救急科が設置されました

入院期間の短縮が進み、各病院が新入院患者の獲得に動く中で、県内でも救急に注力する病院が増加しています。2016年度診療報酬改定で「重症度、医療・看護必要度」の評価項目に救急搬送後の入院が加わったのも後押ししていると思います。今後の本病院の進むべき経営形態に関しては様々な意見がありますが、新入院患者の獲得に短期的に効果を及ぼすだけでなく、地域医療を支えるという意味でも間違っていないと思います。本稿では当院の救急患者受け入れの現状と、さらに将来にわたっての展望に関してまとめてみました。

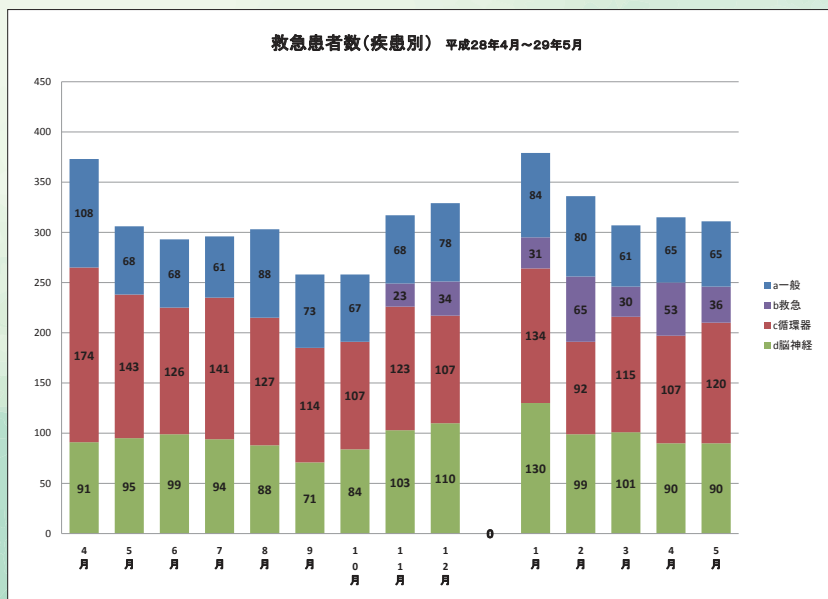
現状ですが、当院では年間約2000件の救急搬入を受け入れており、そのうち1500件がそのまま入院しています (Fig.1)。みなさまの日々の献身と協力のたまものですが、その内訳は循環器と脳血管領域が大部分を占めています (Fig.2)。この2領域の受け入れの多さに関しては救急車搬入からカテーテル処置などの治療、さらにICUやSCUなどへの搬入など、当院において既に組織だった体制が構築されていることが大きな要因と思われます。今後さらに救急患者受け入れの拡充を視野に入れると、消化器領域などの受け入れと緊急内視鏡、エコー検査やICUでの管理など、それをサポートする院内体制の充実が必須です。この点に関しては今後各担当部署と話し合いのもと協力体制を確立していく予定です。

また本年秋から当院でもドクターカーを運用する事になりました。当科の人員の制限から、まずはその運用に関してはドクターヘリとのランデブーや重症患者の病院間搬送を基本に運用を開始したいと考えています。どの病院に関しても共通のことですが、病院の救急科運営は病院全体の問題です。御協力のほど切にお願いいたします。

(文責：救急科医長 田中 秀樹)



▲ Fig.1+(29+ 救急車・入院件数)



▲ Fig.2+(救急患者数・疾患種別)



新人職員宿泊研修



平成29年度新採用職員を対象とした、「新人職員宿泊研修」を開催しました。今年度の研修会場は、いちき串木野市にある『シーサイドガーデンさのさ』にて平成29年6月23日と24日の2日に渡り実施しました。梅雨時のあいにくの天気でしたが、オーシャンビューの会場は、雰囲気も良く、普段の職場での緊張から解放されるようでした。

研修の目的は、「職場を離れ心身ともにリフレッシュし、新人職員同士の親睦を図る」とし、レクリエーションやグループワークを通じて、情報共有や他職種とのチームワークづくりができることを期待しました。

1日目の8時30分に病院を出発し、1時間ほどで会場へ到着しました。研修最初のプログラムは、グループワークを実施しました。「新人同士が集まり、日頃感じていることを語ろう」のテーマで、普段の勤務で感じていることを「困ったこと」「悩んでいること」「楽しかったこと」「嬉しかったこと」「辛かったこと」などに分けて、意見をまとめ、発表しました。

午後は、まず、講師を招いての特別講演でした。講師は「キャサリン・相良照代」先生をお招きし、『笑わないと人生9割損するよ』のテーマで、仕事と笑いを結びつけてのお話がありました。先生は「コスプレ美魔女講演家」として活動し、宮崎県都城市のみやこんじょ大使としても活動する著名な方で、講演の際は、毎回「へんちくりんな仮装」をしてお話しされます。今回はツタンカーメンをモチーフにした仮装にて、笑いを交えて講演いただきました。

夜は食事とともに、懇親会がありました。余興として、新人職員より趣向をこらした出し物がありました。みんな個性を生かしたアイデアにて、とても楽しい時間を過ごせました。

2日目は、城ヶ崎臨床研究部長より「ゆくかわのながれはたえずして その2」として、昨年度に引き続いての講演をいただき、大きな流れの中での、自分のありがたなど、深く考えさせられました。続いて、花田前院長より「医療者として目指してきたこと」として講演いただきました。これまでの医師としての経験やエピソード、その中での失敗談など、お話いただき、新人職員にとっては、これからの人生において、ためになる講演だったと思います。

最後のプログラムとして、「鹿児島医療センターの職員として、今、患者さんのためにできること」をテーマにグループワークを行いました。これから、長い期間を鹿児島医療センターで過ごしていくにあたり、自分に何ができるか考えることができたと思います。

今年度の参加者は、看護師を中心に59名の参加となりました。4月から働きはじめ、まだまだ緊張の糸を張っている新人職員にとっては、いいリフレッシュの機会になったことと思います。最後に、花田前院長より、ねぎらいと激励の言葉をいただき全ての日程を滞りなく終えることができました。

私自身も初めての参加でしたが、新人職員にとって、多くのいい刺激を与えられる研修になったと思います。これから、新人職員の方々は、夏の厳しい暑さをむかえ、仕事面でも日々環境の変化が待ち受けていると思いますが、さらなる成長と鹿児島医療センターへの貢献を期待しています。

(文責：庶務係長 山本 孝平)



新任紹介



消化器内科
瀬戸山 仁

この度7月より消化器内科医長として赴任しました瀬戸山です。今回3回目の鹿児島医療センター勤務になりますが、私にとってこの医療センターは、とても印象深い病院です。自由な気風と進取の気鋭に溢れた病院で、私自身この病院で大変貴重な経験をさせて頂き、医師としての基礎や土台を作ってくれたと思っています。そして今回は、私を育ててくれたこの病院に、少しでも恩返ししたいという気持ちで参りました。当院は、大学病院に決して引けを取らない、臨床・研究・教育ができる機関であると思っています。私は前職の鹿児島大学病院総合研修センターで、約5年間研修医教育に携わってきましたが、これまでの経験を生かして教育面からもお役に立てればと思っておりますので、どうかこれからも何卒よろしくお願い申し上げます。

病棟紹介 ■ 西3階病棟 ■



西3階病棟は、耳鼻咽喉科、消化器内科、腫瘍内科の50床の混合病棟です。病棟スタッフは、耳鼻科医師3名、消化器内科医師5名、腫瘍内科医師1名、看護師34名うち緩和ケア認定看護師1名が配置され、看護助手4名、看護助手クランク1名で構成されています。



入院患者の7.8割の方が、がんの治療・療養をされています。耳鼻咽喉科では、手術療法が主に行われ、消化器内科においては、内視鏡検査やEMRやESDなどの内視鏡的治療を行っています。腫瘍内科および各科共通して化学療法、放射線療法等のがん治療を行っています。私たち看護部は、病気の告知、治療方針決定の時点から患者の思いや不安に寄り添い、全人的苦痛の緩和を目標に、緩和ケアチームと連携し、看護を提供しています。病棟には、緩和ケア認定看護師が勤務し、専門性を発揮しています。

また、緩和ケアの一環として毎月、第2土曜日に当病棟の食堂で患者サロンを行っています。音楽家四つ葉のクローパーの協力による季節に合わせたミニコンサートや節分、七夕、クリスマスコンサートなどの季節行事を行い、入院していても患者様が季節を感じ、大切な人と特別な時間を過ごして頂けるよう緩和ケアチームと協力して取り組んでいます。今年度は、4月に県民交流センターでお花見をすることができました。

今後がん治療を受ける患者様、ご家族の思いに寄り添い、安心、安全、信頼される医療・看護を目指し、取り組んでいきたいと思っております。

(文責：西3階病棟看護師長 池田 智子)

地域医療連携懇談会中止のお知らせ

国立病院機構鹿児島医療センター 地域医療連携懇談会につきまして、今年度は開催を中止することとなりましたのでお知らせいたします。当センターが鹿児島医療圏における地域医療支援病院として平成18年2月に鹿児島県の承認を受け、今年度で11年目となります。この間、多くの先生方からの多大なご指導とご支援をもって、地域医療支援病院として順調な歩みを続けていますことを、厚く御礼申し上げます。

平成29年1月30日に開催しました「第5回 国立病院機構鹿児島医療センター 地域医療連携懇談会」には、多数ご出席いただきありがとうございました。

この度、当院は、通信病院との機能移転が合意に至り、平成30年4月に370床から410床へ増床することが決定しました。現在、外来棟や病棟の改修などを進めており、地域医療支援病院としての役割をより一層向上できるように邁進しております。

つきましては、「地域医療連携懇談会」は、通信病院との診療移転準備等のため、今回、開催しないこととなりましたので、取り急ぎお知らせいたします。

これからも地域医療連携に力を入れていきたいと考えておりますので、ご理解、ご協力よろしくお願い申し上げます。

なお、地域医療支援病院運営委員会(院内外の委員12名及び関係者のみ)は予定どおり10月23日開催予定です。

(文責：メディカルサポートセンター長 蘭田 正浩)

■お問い合わせ先

独立行政法人
国立病院機構

鹿児島医療センター (循環器・脳卒中・がん専門施設)

〒892-0853 鹿児島市城山町8番1号

(代)TEL 099(223)1151 FAX 099(226)9246 <http://www.kagomc.jp>

【地域連携】 蘭田・谷口・田上・吉永・迫田・中田・吉留・菊永・櫻木・田辺

【がん相談】 松崎・森・水元・木ノ脇・原田・上妻・久保・杉本

フリーダイヤルFAX専用▶0120(334)476

※休日・時間外は当直者で対応します。

